

一緒に仕事をしている Aさんとの思い出

ドガポンの話をすると
必ず思い出すことがあります。

初期のころに参加してくれて
今は一緒に仕事をしている
Aさんとのエピソードです。

思い出話なのですが、
動画を学んだ人の成功事例としても面白いですし、
読んでいて勇気が出ると思います。

会話形式を織り交ぜながら
当時のまま書きますね。

当時、Aさんは28歳。
大学を卒業して同じ会社にずっと勤めていました。

毎朝満員電車で揺られて出社し、
上司に成績で怒られることにも慣れてきて
休日はストレス発散で飲みに行ったりゲームをしたり。

ある日小さなミスで上司に怒られたとき
プツンと糸が切れたような感覚になり
「絶対会社辞めてやる」と決心し
副業を探したところ動画編集を知りました。

「会社辞めてフリーランスになる！」
と決めたものの動き方がわからず
いろいろなスクールの話を聞いて回っているとき
私たちは出会いました。

(当時、カリキュラムの説明を担当していました)

以下、始める前のAさんとの会話です。

==
オカモト=オ と表記します
==

A「仕事が忙しいところが心配なんですよね。」

残業があつたりもしますし...」

オ「私も会社員時代は残業があつて
家に帰るのが遅くなることよくありました。
それで帰ってから編集作業やって寝るのが遅くなることもありました」

A「そうなりますよね。
そんな状況でできるのかなと思ってしまうんですよね。
オカモトさんはなんでできたんですか？」

オ「うーん、思いが強かったから、です。
会社辞めて自由に生きれるようになりたい
とっていたので頑張れました。
ここでやらなかったら一生ダメな気がしてました」

A「すごいですね...」

オ「そんなことないです。
Aさんはフリーランスになる意気込みは
どのくらい強く持ってますか？」

A「それは本気です。本当に会社辞めたいと思ってます。」

オ「なるほど。ではどうしましょう...？」

A「...頑張るしかないですよ。うん。
時間がないとか言ってもらえないです！」

オ「私もそう思っていました。
私もできたので、Aさんができな理由なんて
ないと思いますよ！」

A「頑張ります！」

オ「では、約束しませんか？
1日2時間。毎日じゃなくていいので
週14時間は取り組むこと。
最短距離で結果を出せるように作っているので、このくらいあればぐんぐん成長していけます
し。」

A「わかりました！」

オ「一緒に頑張りましょう！
無事会社辞めれたら飲みでも行きましょ笑」

A「いいですねそれ！ぜひお願いします！」

オ「楽しみにしてます！」

A「それとひとつ相談なのですが
貯金をほとんどしてなくて、パソコンも持ってないですし
支払いのほうができるのかなって思ってます。」

オ「普段どこにお金使ってますか？」

A「飲みいったり、ゲームに課金したりして
給料使いきることがほとんどです」

オ「それ一時的に我慢するしかないですね。
やり始めたら普段遊んでいた時間を割いて
取り組むことになるのでお金減らなくはなるので
それでいけるなら大丈夫ですよ」

A「ちゃんとやっていけるように無駄遣いやめます！」

オ「そうしましょう！
山田さんも遊ぶ前に金稼げて言っていました！笑」

A「稼いでいっぱい遊びます！」

といった馴れ初めです。

状況は昔の私に似てるなと思いつつ、
金銭面に関しては私以下だなと感じていました。

こんな会話をしてAさんがお金がない中、
覚悟を決めて飛び込んだことを知っていたので
「絶対に成功させてあげよう」と
強い気持ちでカリキュラムの見直しを急いでしました。

わかりにくいところはないか？
もっとよくできるところはないか？
最短で結果を出すためにもっとできることはないか？
考えに考え続けました。

Aさんは私との約束を守って
週14時間は取り組みました。

パソコンも持ってない未経験から始めましたが
みるみるうちに成長して行って
4ヶ月目には案件をサクサクこなせるようになりました。

もちろんソフトの扱い方で慣れない部分があったので

夜遅くまで取り組むこともありました。

たまにチューターや講師に尻を叩いてもらいながら
私とも会話をしていきながら
カリキュラムを進めていきました。

6ヶ月が経ったころには
月収25万まで成長して
ドガポンカリキュラムが終わると同時に
会社に辞表を出しにいきました。

A「オカモトさん！ 今日辞表出しに行ってきます！」

オ「おめでとうございます！
6年勤めたAさんがいきなり辞表出すなんて
びっくりでしょうね笑」

A「ダメ社員と思ってたかもしれないけど
裏ではちゃんと努力して稼げるようになってたんだぜ
って心の中で叫んどきます。笑
ほんと清々しいですね！」

オ「Aさんの頑張りの賜物です！」

A「本当にありがとうございます！」

そして、一番思い出深いエピソードが
最初に約束した飲みに行った時のことです。

地域が離れていてオンラインでの関わりしか
なかったのがこの時が初対面でした。

A「いやー、オカモトさんとの約束を果たせる日が来て
ほんと嬉しいです」

オ「感動ですね！
短編映画くらい作れそうですもん」

A「ほんとですね。笑
ほんとに、本当にオカモトさんとドガポンに
出会えてよかったです。」

オ「そういってもらえて嬉しいです」

A「あの時は、怒られてばかりで
それでも会社ではニコニコして、まあいいやと
思うようにはしてたけど家で苦しくなること何回もありましたもん。
俺って存在価値ないのかなって。」

オ(うなづく)

A「オカモトさんが背中押してくれなかったら
もう、壊れてたんじゃないかなと思うんですよ」

オ「よかったじゃないですか。
今こうやって楽しく生活できてることですし」

A「本当に、オカモトさんは恩人です。
本当に、出会えてよかったです。」

オ「ちょ、Aさん泣かないでくださいよ...笑」

A「だって...こんな楽しい気持ちなんて...
会社にいたら絶対...ないですもん...
人生変えてくれた人と...一緒に飲めるなんて...
うう...ありがとうございます...」

オ「そんなに言われたら
私も泣きそうになっちゃいますって...笑
乾杯しましょ！」

A「はいい...」

オ「乾杯！」

A「乾杯！
今日のご馳走させてください！」

Aさんとの絆も深まり、
今は私と一緒にライアートプロモーションで
チャンネル運用や映像制作の仕事をしています。

人生がたったの6ヶ月で変わってしまいました。

今こうやって書きながらも
思い出したらじんわりきてしまうような
エピソードです。

Aさんも私も特別な人間ではなかった。

だからこそ、あなたも変われる可能性を秘めているのです。

秘めた可能性を伸ばせるのがドガポンの仕事の素晴らしいところです。

ずっとこの現場に関わっていきたいと思えるエピソードはいくつもあります。

今カリキュラムを実践中の生徒さんとの物語も進行中です。

ここから劇的なドラマが生まれていくことでしょう。

行動することに不安はつきものです。が、踏み出すことで確実に何かが変わっていきます。

あなたの変化に立ち会えることを楽しみにしています。

カウンセリングでしっかり話を聞いて納得してスタートしてください。